



名古屋市立大学大学院
経済学研究科准教授

川端 康氏

オープン カレッジ

近年、生産工程を分割し、複数国に配置して国際分業を行うグローバル・バリューチェーン（フラグメンテーションとも呼ばれる）の展開が活発になっている。たとえば、アップルの 아이폰 は、韓国、台湾、ドイツ、日本などから部品を調達して中国で

組み立てられている。

このように現実を踏まえ、経済を最終消費地の米国に輸出し、済協力開発機構（OECD）たしよつ。このとき、従来と世界貿易機関（WTO）はの貿易統計では、中国が米国今年1月、新しい貿易統計をに100億ドル輸出したと計上発表した。これは、国際貿易を付加価値（生産額から原材料などの中間投入の額を差しが30億、中国が20億それぞれ

付加価値で見た国際貿易

引いたもの）で見ることによ、米国に輸出したと計上される。通商関係の全貌を正確につかもつとする試みである。付加価値貿易統計によれば、日本から韓国に50億ドル、日本の最大の輸出相手国

い、日本から韓国に50億ドル、日本の最大の輸出相手国の部品を輸出し、韓国で加工は米国となる。輸出総額で見ると、2009年の日本の輸出（付加価値）を中国に輸出し、出先の第1位は中国（日本の中国で組み立てられて100億ドル、輸出の24%）で、第2位は米

米国が最大の輸出先に

国（22%）であった。それに対して付加価値で測ると、第1位は米国（19%）、第2位は中国（15%）となり、順位が逆転する。また、2009年の日本の対米貿易黒字は、貿易総額で見えた場合、220億ドルであったが、付加価値で見ると、360億ドルへと大幅に増加することになる。これは、日本が部品などの中間財を輸出し、中国などの東アジア諸国で組み立てが行われ、最終消費地の米国へ輸出される、という東アジアの貿易構造を反映している。さらに、日本の輸出にとって米国の需要がいかに重要であるかを示している。

韓国は日本に対して貿易赤字が大きいことを懸念しているが、付加価値で見ると、赤字はほとんど無くなる。2009年の韓国の対日貿易赤字は85億ドルであったが、付加価値で測ると、赤字は3.6億ドルまで縮小する。これは、日本が韓国に輸出した中間財が、その後、各国に求められる政本が韓国に輸出した中間財が、さらに加工された後、他国に再輸出されたり、日本が輸入する完成品に韓国製の中間財が使用されていたりすることから、関税の撤廃の一つとして、関税の撤廃だ

グローバル・バリューチェーンが広がる中で、保護主義が幅広い分野で共通のルール作りを目指す環太平洋パートナーシップ（TPP）に参加することが挙げられよう。

